

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、回復しつつある」

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
総括判断	回復しつつある	回復しつつある	→

（注）6年1月判断は、前回5年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復している。観光は、回復しつつある。雇用情勢は、改善に向けたテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

項目	前回（5年10月判断）	今回（6年1月判断）	前回比較
----	-------------	------------	------

個人消費	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
観光	回復しつつある	回復しつつある	→
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	改善に向けたテンポが緩やかになっている	↘

設備投資	5年度は増加見込み	5年度は増加見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超幅が拡大している	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	→
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売額は、物価上昇の影響はあるものの、食料品が引き続き好調であるほか、インバウンド需要が増加していることなどから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗などが引き続き好調なことから、前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数、中古車販売台数は、ともに前年を上回っている。家電販売額は、前年を上回っている。このように個人消費は、緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- 物価高により家計では、生活必需品の支出構成比が高くなり、「ぜいたく品」のようなものには支出が回りにくくなっている。インバウンドは回復途上だが、中国客以外の免税売上高はコロナ禍前の水準に回復。(百貨店・スーパー)
- 来店客数、客単価も上昇していることから、売上額としても増加している。原材料価格高騰の影響から、素材と調理品の価格差が少なくなっており、共働き世帯の時短ニーズなどから、総菜は引き続き好調。ディスカウント商品やプライベートブランド商品へシフトする動きがみられ、消費者が価格に敏感になってきている印象。(百貨店・スーパー)
- 観光客増効果、物価値上げは一巡し、勢いはやや落ち着いてきた印象だが、来店客数、客単価は前年を上回る状況が継続し、買い上げ点数もほぼ前年並みを維持していることから、1店舗あたりの売上高も前年を上回っている。観光地周辺店舗では引き続き好調を維持している。(コンビニエンスストア)
- 5類移行によりマスクの売れ行きが落ちているが、化粧品が大きく回復しているほか、リップクリーム、カイロなど季節性商品などは売上を伸ばしている。インバウンドの動きもみられるようになった。(ドラッグストア)
- 引き続き、半導体不足の影響は緩和し、自家用、レンタカーともにプラス基調で推移している。(自動車販売店)
- 新車販売が順調で中古車市場の需給が緩み、相場の下落傾向は継続。オークションの成約件数は伸びている。(中古自動車販売店)
- 物価高により生活必需品への支出額が多くなるため、家電に関しては厳しさがあるが、省エネタイプの高性能商品は堅調であったほか、携帯電話は単価上昇、販売台数増加。端末の値下げ制限前の駆け込み需要などから好調。(家電量販店)
- 木炭、薪、テントなどのアウトドア用品、DIY関連の商材に良い動きがあった。(ホームセンター)

■ 観光 「回復しつつある」

入域観光客数について、国内客は、団体旅行需要の高まりや各種イベントの開催などにより増加している。外国客は、航空路線の再開などにより堅調に推移している。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、回復しつつある。

- 社員旅行や修学旅行団体が好調でコロナ禍前の水準まで回復している。一方、個人客は振るわなかった。全国旅行支援が終了したことや物価高の影響で買い控えの動きがあるほか、新規ホテルの参入により個人客が分散していること等が要因と考える。(宿泊)
- 修学旅行シーズンであることやインバウンドが増加していることを要因に好調。修学旅行のバスの調整は、他社と協力して行ったため、需要の取りこぼしはなかった。インバウンド需要はコロナ禍前と比べると回復していないが、戻りつつある。(運輸)
- NAHA マラソンの際は連泊する客が多く好調だった。那覇大綱挽まつり等のイベントでも稼働が上がった。(宿泊)
- 円安の影響で海外旅行の代替先を沖縄としているのか、3-4泊する宿泊者が増えた。(宿泊)
- 小規模のレンタカー会社が増えており、低価格競争が激化している。単価を上げて売り上げを確保することが難しくなっており、稼働を上げていく必要がある。(レンタカー)
- 修学旅行が好調。売り上げは2019年度とほぼ同水準になっている。また、2024年1月以降に台湾路線が増えることや冬のシーズンはゴルフ目的で沖縄を訪れる観光客も増えるため、さらに伸びていくと見ている。(娯楽)
- 先行きについて、予約は好調に入っている。また、スポーツ関連イベントや毎年恒例のプロ野球キャンプがあるため好調の見込み。(その他サービス業)

■ 雇用情勢 「改善に向けたテンポが緩やかになっている」

有効求人倍率（季節調整値）は、低下している。新規求人数は、業務効率化を図るなどして求人を減らす動きがみられていることから、足下では前年を下回っている。このように雇用情勢は、改善に向けたテンポが緩やかになっている。

- 11月の有効求人倍率（季節調整値）は1.11倍。業務縮小、業務効率化を図るなどして求人を減らす動きがみられていることや観光関連の求人が落ち着いてきていることなどにより有効求人倍率は低下している。（公的機関）
- 物価高で生活が厳しくなり、シニア層を中心に求職活動を始めた人が県内各所のハローワークで増えた。（公的機関）
- コールセンターの派遣求人が減少している。今後はノンボイス化が進んでいき、さらに減少していくと思われる。（求人誌出版）
- 店舗ごとの業務プロセスの標準化、ITツールの積極的な活用により効率化を進めている。（小売）
- フロントや清掃、調理部門で人手不足感がある。足りない部分は外国人労働者の受け入れで対応している。受け入れは継続していきたい。（宿泊）
- 現場の人手不足感は大いにある。人手不足により工期の遅れが生じ、その分手持ち工事が増えるため受注機会の逸失まで起きている。特に、宮古では人手不足感が顕著に現れており、現場の職人がいくつもの現場を掛け持ちしている。（建設）
- 期末に向けて採用に力を入れてきたものの、正社員・パートいずれも充足するには至っていない。人手不足で転職への障壁が低くなっており、社員各々のキャリアプランも多様化していることから、退職者も一定いる。特に宮古、八重山の人手不足は顕著。（百貨店・スーパー）

■ 設備投資 「5年度は増加見込み」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

- 製造業では、32.5%の増加見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、サービスなどで減少するものの、金融・保険、電気・ガス・水道などで増加することから、全体では14.0%の増加見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の改修や新会計システムの導入などを予定しており、増加見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ 企業収益 「5年度は増益見込み」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

- 製造業では、52.5%の増益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設で減益となるものの、卸売・小売で増益となることなどから、全体では17.8%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「現状判断は「上昇」超幅が縮小」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」5年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では、「上昇」超幅が縮小している。先行きは「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家で前年を下回っているものの、貸家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（5年度12月累計）は、前年を上回っている。

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

- 生産活動は、足下で食料品が低下しているなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。